

2025 年 02 月

神と情志の中医学概念及び臨床応用

上海中医薬大学付属日本校 陳 雷

一、中医学の「神・情志」とは

(一)「神・情志」の定義

神は、人体のすべての生命活動を主宰、顕現するものであり、または精神活動の総称でもある。

情志は、生活の環境や活動に対して発生した感情反応であり心理活動でもあり、神の範疇に属する。

(二)「神・情志」の分類及び内容

1. 神の分類及び内容

①先後天の神

先天の神——元神（がんしん） 生まれつき持っている。

五臓神、眼神など

後天の神——識神（しきしん） 生まれた後、環境や経験また勉強などによって形成される。

言語、認知、情緒など。

②五神 魂：意識的、情緒的な生理活動（精神心理）

神：意識、認知、思惟、情緒、精神の活動

意：心有所憶謂之意

魄：本能的な生理活動（感覚、動作など）

志：意之所存謂之志

2. 情志の分類及び内容

怒：緊張、不満などの感情反応

喜：愉快、満足などの感情反応

思：判断できない、不安的な感情反応

悲：失望的、哀れな感情反応

憂：心配、迷いなどの感情反応

恐：怖いことに不安、焦慮などの感情反応

驚：突然発生したことに不安、緊張などの感情反応

二、「神・情志」の生理機能

1. 神の生理機能

①生命活動を統括する。

②各臓腑組織器官の生理機能を協調する。

③精神心理、思惟認知などを司る。

2. 情志の生理機能

①精神心理の状態を顕現する。

②気の運動（気機）に影響する。

怒→気上 喜→気緩 思→気結 悲→気消 驚→気乱 恐→気下

三、「神・情志」の病理変化

	神志 (脳回転)	表情	顔色	言語	呼吸	行動
神気不足	遅緩	少ない	蒼白 艶悪い	言少、懶言 声低	少気	無力 倦怠
失神 (神衰)	乱れ	煩躁	晦暗	無言	異常	無力 手さぐり
仮神	突然に よくなり、 はっきりする	突然に 興奮状態	頬が化粧した ように赤くなる	突然に 明瞭になる	不安定	突然に 力あり 食べる
神乱	精神失調 不安、煩躁 意識不明	●痴呆 ●狂騒		言多 独語 怒罵、高呼	乱れ	異常

四、「神・情志」病の臨床治療

(一) 治療方針

神の異常	治療原則(治法・方針)
神気不足	滋陰安神 養血安神
失神(衰)	養心補脾疎肝安神
仮神	
神乱	清熱安神 瀉火安神

(二) 治療方法

- 方薬治療

朱砂安神丸（鎮心安神、瀉火養陰）	珍珠母丸（鎮心安神、滋陰養血）
磁朱丸（重鎮安神、潜陽明目）	酸棗仁湯（養血安神、清熱除煩）
天王補心丹（滋陰養血、補心安神）	甘麦大棗湯（養心安神、和中補脾）

2. 経穴治療

神門（手少陰心経） 大陵（手厥陰心包経） 太衝（足厥陰肝経）
 心兪、厥陰兪、肝兪（足太陽膀胱経） 神庭（督脈） 神厥（任脈）

五、「神・情志」の養生保健法

(一) 考え方の調整

(二) 睡眠と仮眠の増加 ※瞑想

(三) 飲食の調節 ※痰火を引き起こす物避け

(四) 早起き・規則生活

(五) 運動 ※ストレッチ、体操、気功など